

平成28年度第1回 四條畷市産業振興ビジョン推進協議会 議事録

- | | |
|-------|---|
| ■開催日時 | 平成28年8月9日(火) 午後1時30分～ |
| ■開催場所 | 四條畷市役所 東別館2階 201会議室 |
| ■出席者 | (委員)
平井 拓己、坂本 知久、松川 圭一、高見 耕示、藤本 正次、中井 春夫、
小宮 宮子、梶川 良一、北田 澄子

(事務局)
市民生活部 産業観光課 |
| ■次第 | 1. 市内各事業所に対するアンケート調査結果について
2. 産業振興ビジョンの改訂に係る素案の検討について
3. その他 |

【平井委員長】

ただ今から、平成28年度、第1回、四條畷市産業振興ビジョン推進協議会を開催したいと思います。
本日は、皆様、お暑い中、そしてお忙しい中お集まりいただきまして、誠にありがとうございます。
私は、本協議会の委員長を拝命させていただいております、プール学院大学の平井と申します。どうぞ
よろしく願いいたします。

まず、冒頭に市民生活部の西尾様よりご挨拶を頂戴したいと思いますので、どうぞよろしく願い
いたします。

【事務局(西尾)】

皆さん、こんにちは。

外は厳しい暑さになっていますけれども、お忙しい中を、お集まりいただきまして、ありがとうございます。
います。

今からお話しさせていただく産業振興ビジョンにつきましては、前回もお話させていただいたのです
が、四條畷の産業を、どうやって盛り上げていこうかというような指針になっております。昨年、これ
に先立って、産業振興基本条例という条例をつくらせていただきました。事業者の皆さん、行政、学校、
市民の方などがそれぞれ役割分担をして、その中で、みんな力を合わせて、同じ方向に向いて頑張っ
ていきましょうという条例です。

この産業振興ビジョンの中にも、いろんな方向性について書いてあるのですが、あくまでも、産業に
携わっている皆さんが主役だということで、今日は、主役の方のオールキャストという形で捉えており
ますので、その意見を最大限重く受けとめて、このビジョンの中に反映していきたいと思っております。
その中で、役所の役割として、どうやってサポートしていったらいいのかというようなこと、具体策を
生み出していけたらと考えていますので、今日は、普段思っていることを自由に、どんどんおっしゃっ
ていただけたらと思いますので、よろしく願いいたします。

【平井委員長】

どうもありがとうございました。

それでは続きまして、事務局の出席者についてご紹介をお願いしたいと思います。

【事務局（西岡）】

産業担当課の西岡と申します。よろしくお願いいたします。

【事務局（鈴木）】

同じく産業担当課の鈴木と申します。よろしくお願いいたします。

【平井委員長】

どうもありがとうございました。

傍聴の方も何名かいらっしゃいますけれども、それでは進めてまいります。

会議に入ります前に、本協議会、昨年度までも行ってまいりましたが、委員の構成に変更がございましたので、ご報告申し上げます。

まず、前任、大阪東部農業協同組合の森本様が変わりまして、今回から坂本様にご出席いただくこととなります。坂本様、簡単で結構でございますので、一言ご挨拶を頂戴できますでしょうか。

【坂本委員】

大阪東部農業協同組合の営農経済部、坂本でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

【平井委員長】

どうもありがとうございます。

続きまして、四條畷市商業連合会の生田様が変わりまして、今回から松川様にご出席いただくこととなります。松川様、一言、ご挨拶頂戴できますでしょうか。

【松川委員】

今期、四條畷市商業連合会の会長を務めさせていただくことになりました、楠公シャルの松川と申します。よろしくお願いいたします。

【平井委員長】

ありがとうございました。よろしくお願いいたします。

続きまして、四條畷市商工会の梶川様が変わりまして、今回から高見様にご出席いただくこととなります。なお、梶川様におかれましては、このたび、新に観光の分野からご参画いただきます、四條畷市の文化観光協議会から推薦を受けられまして、引き続き本協議会にご出席をいただくこととなりますので、併せてご報告を申し上げたいと思います。

それでは高見様、一言ご挨拶をお願いできますでしょうか。

【高見委員】

四條畷商工会の会長を拝命しております高見でございます。よろしくお願いいたします。

【平井委員長】

ありがとうございます。

続きまして、このたび、新たに一般市民の方の代表としてご参画をいただきます、四條畷市消費生活

友の会から推薦を受け、本協議会にご出席をいただくこととなります、北田様でございます。

北田様、一言よろしくお願ひいたします。

【北田委員】

北田と申します。できるだけ消費者としての意見を出せればと思っています。よろしくお願ひします。

【平井委員長】

どうぞよろしくお願ひいたします。

ご紹介は以上でございます。

それでは、早速ですが、次第に沿って進めさせていただきたいと思ひます。

まず、次第の1でございますのが、市内各事業所に対するアンケート調査の結果について、でございます。それから、次第2のほうが、産業振興ビジョンの改定にかかわる素案の検討についてということになっておりまして、併せて一括でご説明いただくということで承っておりますので、事務局のほうから内容の説明について、お願ひしたいと思ひます。それでは、よろしくお願ひします。

(事務局より、市内各事業所に対するアンケート調査結果および産業振興ビジョンの改訂に係る素案の検討について、説明あり)

【平井委員長】

どうもありがとうございました。

非常に、広範囲にわたりますし、情報もたくさんありましたので、説明していただくほうも、お聞きいただくほうも、なかなか大変だったかと思ひます。本日は、このビジョンを改定していくということで、こうした案をおつくりいただきましたので、皆様のほうから忌憚ないご意見を伺ひまして、反映させていきたいということが主な目的になろうかと思ひます。

ちょっと昔話をさせていただきますと、これを当初からかかわっていただいた方も、今日お越しいただいておりますけれど、最初の、この会議をしたのが6年前になるわけですね。6年前に産業振興で、こういったビジョンをつくらないといけないということで、お声をかけていただいて集まっていたいて、一からずつつくり上げてきたわけですね。つくってから、ここはすごいなと思うところは、それで終わりではなくて、やはり進行状況であったり、常に新しい状況を踏まえてということで、いろいろ付け加えたり、うまくできたことは外してみたりというようなことを、ずっとこの協議会で行ってきたと、そういう経緯がございます。

今回大幅に改定をしようと、しかも昨年、条例もできたことですので、それとも整合させて、こういった新しいビジョン、そして具体策というのをつくっていくということで、非常に短期間だと聞いておりますけれども、調査もまとめていただきましたし、私自身も学生を連れて、商店街へ調査に行かせていただいて、非常に楽しかったのですけれども、そういう取り組みをさせていただいた、その1つの取りまとめが、こちらであるわけですね。

ということなので、調査結果に対するご質問でも結構です、確認されたいことがありましたら、どうぞおっしゃっていただければいいと思ひます。

【梶川委員】

昨年というか、前回は、商工会のほうで出させていただいたのですけれども、今回は、文化観光協議会というところから出させていただいております。何点かございますが、まず、11ページの、インバウ

ンドに向けて、外国語観光ホームページ。文化観光協議会のほうで、29年度事業の素案を、再度精査させていただいて、市にご提示をさせていただきたいと思っておりますので、それをお配りします。

ですから、これにつきましては、皆さんからもご意見も多々あるかとは思いますが、29年度事業提案の案ということですので、ご了解いただきたいと思います。

11ページの、インバウンドに向けてということを書いてございますけども、私どものほうでも、四條畷市インバウンド観光ウェブサイトの作成、これをどうでしょうかということ。事業目的としましては、情報発信の効果と、既存事業の連携、それから魅力創造の効果という、3つの柱でさせていただいて、情報発信では、この四條畷の観光情報を発信しましょう。既存事業としては、本市の観光を中心として、商業、工業、農業、その他の多様な事業活動をご紹介、連携させていただこう。その効果としては、本市で魅力を新たに、それを裏づけて作り出していきますかということ。

事業概要としましては、インバウンド対応型のウェブサイトを作成、インバウンドの増加、これもやはり観光が多いものですから、そういうものに対して、私たちのほうでは、どうしようかと。本市のホームページを見ると、まだまだかたいなと思ったものですし、また、色々と、もっと色んな人が取つきやすい、外国の人が見やすい、そういうものが必要ではないかということをやっております。

資料を調べていきますと、案外と大阪は、外国人の観光客の数が、私たちが思っていた以上に多くて、東京に次いで第2位と。ですから名古屋にも勝ったということがございます。ただ、それは大阪市を中心とした、大阪市内という形でございまして、近隣市への波及がやはり見られないということで、その近隣性を活かして外国観光客の誘致を図り、経済のさらなる発展を求めていきたいなということがございます。

次のページですけれども、外国人観光客を対象とした情報発信ツールに書く、本市にある、数ある魅力的な観光資源をアピールする機会が極めて限定的で、少ないということがございますので、どうすればいいか、事業効果を考えました。

1として、オリジナルのコンテンツによる交流の促進、インバウンドの増加に対応した国際的な交流と、着地型といわれる、地域主体の観光による地域内外の交流。それによって、いろんなことが求められると思っておりますし、調べてみますと、多くの自治体で、かつて観光課、観光局と言われていたのが、観光交流課、観光交流局という名称に変更していることから、その観光の重要性があるのではないかと考えております。

それから、国際交流と地域間交流の双方が促進されるようなコンテンツを中心にウェブサイトを設定することで、本市における交流人口の増加に寄与することに努める。また、そういうことが求められるのではないかと考えております。本市の観光振興が、より一層刺激され、その効果、本市の商業や産業などの幅広い領域に経済的な波及を与えることが期待できると思っております。

コンテンツは多言語対応、例えば英語、韓国語、中国語など、その他いろいろカタログなどにかかるところを、東南アジア向けの言葉なども必要かと思っております。そういうふうにして、いろんなことを考えていきたい。

①としまして、提案型の観光情報案内サイトとさせていただく。見る、食べる、体験するなど、ジャンル別に情報を整理、歴史や自然を感じるグリーンツーリズムや、人々の暮らしが息づく商店街、食や宿泊施設の情報がターゲット層に対して確実に届くように発信していくということです。

大阪のエンターテインメントの発信。外国人観光客が、本市を拠点として大阪市内への観光エリア、USJとか、海遊館、割に外国人がよく行く大阪城、その他、こういうメインで、そういう形でアクセスできますよと、そのような情報提供していきたい。そうすることによって、こちらへ泊まるなどできるのではないかと考えております。

③として、外国人リポーターによる動画の配信。私たちの目では、これが当たり前と思うところが、

やはり例えば、本市に住んでいる外国の方、または、本市には大学がございますので、留学生、そういう人の目から見て、私たちの気づかないところを動画形式で配信していったらどうだろうか。このように観光ウェブアンケートをすることによって、観光のフィードバックでアンケートが回収されるのではないかと考えております。

観光客に対するマーケティングということで、ウェブサイトの活用をして、四條畷市の観光資源等に対する観光客、市外からの感想や意見といった情報を収集し、よりよきものをつくっていきたいということを考えております。

(2)として、市内宿泊需要の創出、空き家対策との関連ということで、本市に訪れる外国人観光客を増やすだけでなく、そうした外国人観光客の、市内における宿泊事業を喚起することも目的の1つであるとさせていただきます。

大阪府内における、ホテルや旅館においては、予約が非常に取りにくくなっている状況にあります。本市、大阪市内観光の拠点として活用していただくというときに、そこで大阪を訪れる外国人観光客に、宿泊施設として本市を選択してもらうことができれば、本市の、大阪市内への観光の拠点として活用できるほか、本市の文化や歴史、自然の観光資源に触れることで、本市の観光活性化に寄与する効果をもたらすことができると思っております。

現在、四條畷市内における宿泊施設は非常に少ないですが、近年需要が拡大している民泊にも注目をしております。2016年4月より、大阪府において、国家戦略特別区域外国人滞在施設経営事業、いわゆる特区への民泊が開始されたことにより、本事業によるウェブサイト通じて、民泊施設に関する事業を外国人観光客に発信することもできると思っております。

加えて、空き家対策として、民泊は効果的であるのではないかと。案外テレビを見ていますと、外国人は、ホテルとか旅館というよりも、古民家とか、我々が普通にいる場所、住んでいるようなところが興味の対象とよく放送されていますので、そういうことも考えていきますと、やはり空き家の対策になっていくのではないかなど。こうして、空き家を活用した民泊事業に参入しようとする、潜在的な民間業者に対しても、ウェブサイトを通じて情報を提供できると思っております。

これは、案の案ですけれども、文化観光局協議会では、29年度事業として、こういうことをしたいと、市のほうにご提案させていただきたい。

それから、11ページ、12ページも関係があります。13ページの郵便番号575は、今、市でもやっておられるのですけれども、市は俳句で、我々の文化観光協議会は、五七五の自由句、俳句のように、季語も何も踏まえていただかなくても結構ですので、例えば小学生が、季語が何もわからなくてもいいと、四條畷のいいところを五七五の、この言葉にはめ込んでやってくださいということです。先日締め切らせていただいたのですけれども、今年は378句の応募がありまして、我々の会員のほうで、それを全部読んでいって、自分がいいと思う句を、それぞれが推薦して、これをまた、市民の皆さんに、再度選んでいただくと。最終的に、優秀句、最優秀句というような形で選んでいけるような形をとっています。どこにもない番号ですので、我々のほうでも活かしていきたいと考えて、そういう活動をさせていただいております。

それから、14ページのインターネットを活用した観光情報の広域発信を行うメディアに対して、本市の観光情報を提供しますということで、市のほうでも書いていただいているのですが、これは、SNSとか、そういうものを使って、もっと若い方でもお使いいただけるようなものも活用したらどうかと。

あと、これをずっと読ませていただいて感じたのは、やはり我々の文化観光協議会の会員の中で、文書化はしておりませんが、こんなことをしたら面白いなという案が出ております。廃校になりました小学校、イオンの壁面を使ったプロジェクトマッピング、こんなことができれば面白いねと。今のところ無理かもしれませんが、最終的にこういうものも、市としても取り組んでいただければいいので

はないかなと思っております。

それから、ここには書いてございませんでしたけれども、例えば日本人は外国人と言葉の問題がある。東北や熊本のような災害があった場合、ここまで津波が来ることはないと思いますが、地震のときは、建物の倒壊があった場合、観光客の安全をどのようにして図るか、そういう指針もやはり必要ではないかなと。そのためには、日本語だけではなくて、ある程度の言葉を使って防災無線で発信する必要もあるのではないかなと考えております。

市内を歩いていますと、防犯カメラの設置が増えてまいりましたけれども、外国人にしたら、日本は世界でも有数の安全国と言われてはいますが、やはり防犯カメラがあることによって、より安心してもらえるのではないかなと思っております。

あと、観光客を呼び込むためには、やはり四條畷としてのマストプランが必要。ここにも書いてございましたけれども、地場産業を利用した食べ物とか、歴史とか、そういういろんな形のものを創造していく必要がある、観光としてはあるだろうと考えております。

これは、何年も前からお話ししていますが、山の上などで馬を飼っておられるところもありますので、馬と歴史の散歩コースの設定、それでうまいこと、飯盛城跡などに整備されましたら、そこに観光客を誘導していく道筋ができたらいかなというようなことも考えています。

【平井委員長】

大変詳しいご説明ありがとうございます。

資料まで用意していただいて恐縮です。観光も、もちろん産業でもありますし、いろんなところで結びついてくるところもあるかと思えます。

お立場にかかわらなくても全く構わないと思いますが、市にかかわっている方々の視点から、今のお話に関連するようなお話しが、もしありましたら、ぜひ伺いたいですけれども、いかがでしょうか。

四條畷は、外国人の方は割とお越しになるのでしょうか。

【梶川委員】

そうですね。だんだん増えてきています。

四條畷とか大東、その近隣地に留学生が住んでいますので。

【平井委員長】

大阪産業大学が多いですね。

【高見委員】

先日、阪奈カントリーへ行きました。あそこにホテルがありますね。外国人の方がいっぱいいらして、いつもバスで来られて宿泊されて、大阪市内へ観光されるとか、奈良へ観光されるとか、そういう方が多いらしいです。

【平井委員長】

カントリークラブのホテルですか。

【高見委員】

そうですね。そういう意味では、四條畷の場合、先ほど梶川委員がおっしゃったとおり、宿泊施設があまりない。観光のために来ていただくといっても、見てもらうところがあまりない。国内の観光客も

あまり来ないというところなので、そういうところを、民泊とか、なかなかハードルは高いと思います
が、いいのかなと。

【平井委員長】

市内は、空き家といますか、そういう民泊になる可能性のある住居というのは多いのでしょうか。

【梶川委員】

探してみたら結構あると思います。

【平井委員長】

大阪市に限って言うと、Airbnb という民泊紹介のサイトがありますけれど、あれで、世界で一番注目
されているのが大阪らしいという話を聞いたことがあります。ここは大阪市内も近いし、おっしゃるよ
うに、奈良にもすぐ行けますね。

【高見委員】

ちょうど中間で、アクセスはどちらもいいと思うので、そういう情報発信みたいなものをしないと、
わかってもらえないですね。

【平井委員長】

市のウェブサイトは、割と外国語化が進んできたような印象ですが。

多言化するというのは1つのステップで、そこからどういうふうに知らせていくのかは、また別の話
かもしれませんね。

【高見委員】

四條畷のホームページは、3カ国語対応でしょう。

【平井委員長】

はい。英語、韓国語、中国語は繁体字と簡体字と両方あります。台湾は、割と繁体字ですし。

【小宮委員】

私も、空き家の活用については、3年ほど前から思っていました。しょっちゅう大東市に行くのです
けれども、2,000円か3,000円で宿泊できますという看板を、駅のところで出ているのを見ましたときに、
まだ、そこに行っていないのですけれど、一体どんなところで泊まれるかなと思ひまして。

外国の方は、あまり高級なところに泊まるというよりは、割と安く泊まりたいというのもあると思ひ
ます。

ドイツと四條畷は友好都市になっていますが、ホームステイで女性の方を、うちのほうで泊まってい
ただいたことがありました。それから、ドイツに限らずに、カナダからの大学生を、これは電気通信大
学との交流の関係で、泊まる場所がないからということで市が募集していたのですが、私はそういう
のに興味があったもので、10人ぐらいは泊まっていたと思います。

四條畷は、泊まる場所というと、アイ・アイ・ランドぐらいですよ。そうすると、アイ・アイ・ラ
ンドは市内から飲んで帰って行けますかと聞かれると、いや、四條畷からタクシーでないと駄目ですと。
非常に不便なところと、それとお金が高いのがありますよね。

やはりぜひ、こういう空き家がどの程度あるか、協力していただけるのはありませんかというのを調べていただいて、それで対応されれば、随分外国人の方は、大阪市内にはかなりたくさんの方が来られていますので、入ってくる人が増えるのではないかなと思います。

それから、外国の方は、室池とか、そういったところにすごく興味を持たれると。それと外国人の方は、結構チャンバラが好きです。それで、私のところに泊まれる方も、すぐ言われるのは、刀が欲しい、刀は売ってないかと。それから着物。ですので、私は、近くの着物屋さんに連れて行って、1,000円、2,000円要るのですけれど、着物を着せて、写真撮ったりして、非常に喜ばれました。

そういう着物とか、書道とか、いわゆる日本的なものを非常に好まれますので、そういうところを一面設けて、ボランティアで何人かが着つけるとか、そのような何かがあれば、四條畷に集客が増えてくるのではないかなと。

特にここには、楠木正行がいて、三好長慶がいます。今、飯盛城跡の史跡指定に向けて取り組んでいますので、そういうところへお連れすると、また喜ばれるのではないかなと思います。

観光協会の方が考えられて発信されると、増える可能性はあると思います。ただ、宿泊を伴うというところは、かなりしんどいものがあります。

【平井委員長】

宿泊施設の問題というのが大きいですか。

【小宮委員】

そうですね。

それから私は、「なわてロードガイドのゆずりは」の責任者をしています。飯盛山など、カルタウオーク言いまして、四條畷市を全部網羅しているカルタがありますので、それを8回に分けて、全部回る予定なのですが、そのときに気をつけることというのは、例えば四條畷の商店街にできるだけ立ち寄りとか、個別で、30人とか、50人とか、高齢者ウオーク団体が来られるときは、商店街の美味しいお菓子とか、そういうところを回るようにしませんかと。本当に微々たるものですが、商店街の活性化に今後とも、そういうところで寄与していきたいと思います。

やはりここに書いてあるように、全部がうまく連携すると、かなり良くなるのではないかなと思います。

こんなところを回ってほしいとか、こんなところを回ったらいいのではないかなというようなことがありましたら、市のほうにお伝えしていただければ。私たちも観光だけではなくて、もっと違う、何かあるのではないかなと思っております。

それからもう1つ、3ページに、地元の工業製品を観光資源にするなどの意見を事業者からいただきましたという、これは、具体的な何かがあるのでしょうか。

【事務局（鈴木）】

具体的に、こういったものをしてくださいというのはないのですが、途中意見の中で、それで回答しております。今後、何かつくっていく必要があるのではないかと。商工会さんも、いろいろ検討はしているのですが、形としてはまだです。

【梶川委員】

今年の春ですけれども、香里園のほうのクラブと、お互いに留学生を集めて、それぞれの国の料理をつくってもらって食べることをしたときに、香里園の方に習字の先生がおられて、留学生に名前を聞いて、それを漢字で書かれました。あなたの当て字ですよ。ものすごく喜んで、半紙に書いてくれたの

を大事に持って帰ってくれたのを今思い出しました。

例えばゆずりはさんで、これが、実現できるかどうかわかりませんが、商店街のはんこ屋さんなどで、表札、いい表札ではなくてもいいので、きれいな板にその人の名前を書いて、帰るまでに書いてあげるのを寄りませんか。案外観光としては使えるのではないかなと。表札という日本文化の一つとして、こんなものがありますよと。韓国の子でも、漢字ばかりと思ったら、そうでもないんですね。名字は漢字だけれど、日本語でいえば片仮名で書いているような子が多いので、それを漢字で、そのときも書いてもらった、初めて自分の漢字ができた、韓国の子でもやはり喜んだりしますので。

それには、商店街のお店の協力が必要ですけども、そんなことも面白いのではないかなと。

【小宮委員】

それは、面白いですね。反対に、それだけで来るかというのが。

【梶川委員】

そうですね。そういうことをSNSなどで発信して、表札というのは日本の文化で、それに自分の名前を書いてもらえるということが広がっていければ、そういうふうな形で来られるかもしれませんし。

【平井委員長】

情報発信の仕方は、本当に進化していますから、今、私の大学の学生でも、メールすらあまり書かなくなってきた、ラインとかツイッターばかりです。そういうものも活用しながら、外国に発信していくことができますね。

先ほどから若干、商店街の話も出てきたりしていますし、いわゆる人が来ることによって商業も盛り上がっていくという側面もあると思いますが、いかがですか。

【松川委員】

お話を聞いていて、面白いなと思ったのは、漢字の表札というのもありましたし、着物を着て写真を撮るとか、そういうちょっとしたことというのは、商店街の各お店で、ちょっとアイデアを出せばつくっていけるものって結構あるのではないかなと。

和菓子なんかもそうですし、簡単な和菓子であれば、その場でつくってもらえるような、そういう講習会のようなものもやろうと思えばできますので。

やはり、海外からの人が、どんどん来るようになれば、そういうお客さんに対応した商売の仕方というの、また出てくるでしょうし、そうすることによって相乗効果といいますか、また海外のお客さんも増やすことが可能ではないかなと思いました。

最近でも実際、外国の方がたまに来られるのですが、一番困るのは、やはり言葉で、最近はスマホなどに翻訳機能があるのですが、語学に堪能な商売人さんというのは、ほとんどいない。やはり、そういう意味でも、商売をされている方に、そういう簡単な英語教育ではないのですが、最低限、こんなことは話せるといいですよとか、こういう説明を外国の人にしたらいいですよ、そういうふうなものがあればね、将来的にはいいのではないかなと思います。

【平井委員長】

人が来て、それを受け入れる仕組みみたいなものも、当然必要ですよ。

私も商店街にはよく行かせていただくのですが、結構いい感じの和菓子屋さんや呉服屋さんもありますよね。

【松川委員】

昔からの。まだ古い商店街の形態をとっているのです、そういう意味では結構、何なりと対応はできると思います。また、そういうものをつくり出すと、今度は海外だけではなくて、国内のお客さんが寄ることも可能になってくるので。

【平井委員長】

そうですね。海外で話題になって、逆に国内で注目されるケースも、今もほかにもありますからね。

【梶川委員】

商店街の空き店舗は、今どれぐらいありますか。

【松川委員】

結構あります。ただ空き店舗ができて、次、入ってくるころはあります。ただ業種は、今まで物販をしていたところが病院系、接骨院、そういうところが変わってくるのか。

【平井委員長】

マッサージ屋さんが増えましたね。

【松川委員】

マッサージ屋さん、今増えているのは学習塾、そのあたりです。ですから、少しずつ本当の昔の物を販売するお店というのが、だんだん少なくなっているというのはあります。

それと、もう一つ、どうしても駅に近いほうは、まだ埋まってくるのですけれど、小楠公さんのほうへ近づいてくると、空き店舗になると入りにくくなってくるというのは、どうしてもあります。だから、そういう面で、チャレンジショップのような形での活用みたいなものも、検討していったほうがいいのではないのか。よそなんかでしたら、ある一定期間は、半分は市が持ちますとか、いろんな厳しい条件がありますけれども、そういうふうな形で、最初に空き店舗を、商売をやりたい方に少しでも取っかかりというのできやすいような形をつくっているところもあるので。

四條畷は商工会で創業塾をしたりして、結構、商売をしたい方はいると聞いているのですが、なかなか。そういう人たちの求める業種と、ああいう商店街の空き店舗でやる人が求める業種とが一致しないことには、どうしようもないのですけれども、空き店舗情報が、不動産屋さんに行けばわかるのではなくて、やはり市のほうでも、ここに空き店舗ありますという発信できるものがあれば、面白いのではないかと思います。

【平井委員長】

そうですね。小楠公地域のほうの商店街は私も調査に行かせていただきましたけれども、結構午前中なんか行くと、非常に人通りはたくさんありますし、空き店舗も、そんなにすぐ目立つ感じではないのですけれど、やはりこれからどうなっていくかということもありますね。

【松川委員】

結構、ここ数年で店が入れ替わっています。抜けても次に入ってきてくれている現状なので、いいのでしょうか。

【平井委員長】

そうですね。その辺は、消費者のお立場からということで、初めてでいらっしゃるかもしれませんが、北田委員、商店街のほうのご利用になられて聞かれるお声とか、ご自身のご経験とか、そういったものというのとは何かございますか。

【北田委員】

商店街は今、マッサージではなくて、300円ぐらいでもんでくれるとか何か。本当は、あれは保険が効かないはずでしょう。

【平井委員長】

そのほうが多いですね。

【北田委員】

それを全部、保険を効かすからと言って、言い方は悪いのですが、客引きみたいに表でお客さんを入れたりするお店も何軒かあります。今から高齢化社会になるのに、私たち高齢者が買い物しにくいイメージがあります。

【平井委員長】

買い物がしにくいですか。

【北田委員】

物がそろわないというか。

【平井委員長】

いわゆる店舗の構成ですね。

【北田委員】

はい。1つのものをするとお店の採算が合わないのでしょう。だから割とお買い物に行っても、ないというか。

若い人は皆、大型店舗のほうに行くから、商売的に難しいのかもしれませんが。

【平井委員長】

資料の一番後ろにあります。私の大学の学生と一緒に四条畷駅前の商店街で調査をさせていただいたんです。イオンができる前と、できた後で調査したのですが、ほとんど内容が変わらないんです。だから、イオンができたから、ガクンと人が減りましたとか、若い人がいなくなりました、ではなくてできる前と、できた後で同じなんですね。ということは、結構前から、その状態がずっと続いていて、それが、いいことかどうかということはあると思いますが、むしろ郊外のショッピングセンターに行ける人は、もう行っているのかもしれませんが、だから、イオンができたからイオンに移ったというよりは、もう、そういう人たちは商店街で買い物をしなくなっているというようなことが、もしかしたらあるのかもしれない。

だけど、割と朝行くと賑わっています。

【北田委員】

そうです、午前中は。

【平井委員長】

圧倒的に皆さん、食料品をお求めになっていますよね。逆に言うと、ほかのものが無い、今の話につながってくるかもしれませんが。

どうですか、皆さん、私はたまにしか行きませんので。

【松川委員】

商店街自体のお客さんの層が非常に変わってきています。というのが、これは調査されたのが、オープン前が火曜日で、それも9月、そして次が2月の寒い時期の金曜日。火曜日と金曜日という、またお客さんの流れも微妙に変わっているというのもあるのですが。

四條畷の商店街というのは、ご存じのようにタイムズはあるのですが、無料の駐車場が、よそと違ってない。しかも道も細いところです。車で来る人が、今までであれば四條畷で止まっていたのが、そのままイオンまで行ってしまふ。ただ、そういうのが数字として、このアンケートでは、あまり見えてきてないなとすごく感じます。

ですから、どちらから来られましたかと言うと、午前中は地元の人が徒歩で集まってくる。その時間帯というのは、もう圧倒的に地元の人ばかりなので、そんなに差はないのですが、では今度、土曜日、日曜日、あと昼からとか時間帯によっても、そうなのですが、車で来る人が増えるような時間帯になってくると、もう、その分がどんと減ってしまっている、このアンケートの結果以上に商店の方々も、もっとお客さんが減っているよという印象といいますか、実際売上も含めてあります。

【平井委員長】

どうですか。

【事務局（鈴木）】

話が観光よりのほうに近づいているのですが、先ほどもご説明させてもらったように、旧来のビジョンというのは、観光も軸にしながらということだったのですが、実際、今回の振興ビジョンにおいては、商業、工業、農業、それぞれの産業の中に観光が溶け込んでいくというような、どちらかという観光がそれぞれの産業を後押ししていくという視点でと考えております。

施策間の連携という話をさせてもらいましたように、各産業がどのように一緒に手を組みながら進めていくべきか、そういったところの議論も含めて考えていただくと、ありがたいかなと思っています。

なかなか出づらいつきは思いますが、例えば工業であれば、先ほどのアンケートの中にもございましたけれども、連携をしていくことで、いろんな広がりを見せる可能性もあります。また農業に関しても現状、すぐに直売所というところには、なかなか結びつきにくいところはあると思いますが、その前段として、皆さんがつくったものを販売していきけるような環境、仕組みをつくっていくことで供給していき量が増えるのであれば、最終的に、そういった直売のことも検討していかないといけないでしょうし、そういった具体的に、どんなことをしていくと皆さんが連携しやすくなるか、もしくはそれぞれの持ち味をどう連携させていくかというところを、少しご議論いただけたらと思います。

【平井委員長】

今あまりご意見をいただけていなかったのので、農業の話にも、話を移していきたいと思います。

私はアンケート調査を見させていただいて、非常にある意味、ショッキングだったのは、直売所が必要だという意見があり、だけど、それをするかという、しないという話になっているわけなんですよね。

そういうこともあります、それにこだわらず、特に農業の側面から、どういうものを入れ込んでいくべきか。いかがでしょうか。

【藤本委員】

直売所ですけれど、後継者がいない農家とか、高齢者ばかりの農家とか、そういった農家ばかりですので、とれる量も今までよりは減ってきています。それと、施設栽培をしているところがないので、その時期にしかとれない。みんなその時期にとれるから、全員が同じものをつくるから、直売所へ持っていってもダブってくるんです。

【平井委員長】

とれるとき、みんな同じものが出てくるわけですね。

【藤本委員】

はい。持っていったら、また持って帰らないといけない。捨てないといけない。みんな同じものばかりつくっている。そしたら無理して直売所へ持っていく量をつくるかという、つくらない。もう自家用がほとんど。

以前、道の駅か何かの調査も市であったと思いますが。

【平井委員長】

旧ビジョンでは、道の駅の発想があったようには思っていました。

【藤本委員】

あれも、やはりつくってもらったら、出さないといけないですね。

【平井委員長】

同じ問題ですね。

【藤本委員】

そして、外から買ってこないと品物がいない状態。またそこへ行って仕事をするという人も、いない。このアンケートにも、どこかにあったと思いますし。

【平井委員長】

かかわるという人が、なかなか少ないと。

【藤本委員】

かかわるというのが嫌という人が。

【平井委員長】

嫌なのですか、できないという話ではなくて。

【藤本委員】

かかわったら、自分の作業ができない。両方うまいこといかないので。つくるか、そこで働くか、どちらかしかできない。

【北田委員】

道の駅などをつくるのは、地産地消の意味でしたほうがいいということでしょう。
そうではないのですか。

【坂本委員】

観光の一環でしょう。

【北田委員】

このあいだ、琵琶湖のほうの道の駅に行ったら、桃とか何とか、全部長野県とか、よその県のものが、ズラッと並んでいました。それで、地元は近江牛か何かがちょっとしかないから、それでは、いけない。

【坂本委員】

農協でも、この近隣のJAでも、そういう直売所が今ありますけれど、どこでも今、どんどん広がっていったような状況ですけれど、特に南のほうの大阪は特産物もたくさんあるので、直売所でも地場産の品物をたくさん取りそろえています。

【平井委員長】

岸和田にある施設などは、すごいですからね。

【坂本委員】

来場もかなりあります。この北河内近辺、大阪市も含めてですけれど、やはり今、藤本委員がおっしゃったように、つくられるものが限られています。直売所をやるからには、やはりお客さんを来てもらうには、品物をそろえないと、なかなか来場者を見込めないということで、グリーン大阪といいまして東大阪の荒本のところに大きいJAがあるのをご存じですか。ちょうど中央大通りの角のところに。あそこにも直売所をしています。もう、ほとんどが他府県の品物で、直売所という感覚が、この辺のJAでは、少しずれているような感覚。

【藤本委員】

名前だけ直売所となっている。

【坂本委員】

今、私のところのJA大阪東部でも朝市という形で販売はさせてもらっていますが、生産者の方が来ていただいて、つくっているものを売っていただくという取り組みはしていますが、やはり専業でされている農家さんだけが数件お見えいただいて販売していただいている状態で、田原地区にも先日、お声

がけさせていただいたのですけれど、やはりわざわざ持って行って、売れるか売れないか、わからないものをやるというのは、ちょっとという、やはり現状はそういう声なんだと思います。

ただ、我々も農業団体としては、観光とまではいかないにしても、何か農業をどんどん元気にしていくような取り組みをさせていただかないといけないと思いますし、このビジョンの中にも書いている持続をしていく農業を、やはりJAとして、行政とタイアップして。

例えば、観光農園というのが出ていましたけれど、このあたりでは結局、皆、米をつくっているの、何か観光農園的なフルーツなんかをつくっていたら、イチゴとか。

【平井委員長】

今、ブルーベリー狩りなどやっていますよね。

【坂本委員】

やはり高齢化になって、いざ、それに切りかえましょうという話をしたところで、現状ではなかなかという声が出るのではないかなと。前に進まない話ばかりで。

【平井委員長】

根本的な問題はずっとあるんですよね。前回でしたか、イオンができて、産直の野菜を売るコーナーがあるけれど、なかなか持って行けないという話が、まさにこの話でした。

【藤本委員】

持って行って置いてくるけど、道中の交通費で売上がとんでしまうから。

【平井委員長】

そうですね、あまり意味がないということになってしまうと。しかも朝すごく早いですよね。

【藤本委員】

何か置かしてもらおうとディベートを取られるので。

振込で手数料を取られるし、交通費がかかるし。

【坂本委員】

通常売っている価格の1.5倍で売らないと採算がとれないという。そうなると、置いていても結局売れないですよ。

【平井委員長】

6年前から、ずっとエコ田原米のことも出ていますし、ブランド化みたいなことも、お米はあるとは思っていたのですけれど。

【坂本委員】

大阪府も、それに力入れてやってくれていますが、エコって今、世の中でブランド化できているかいと、そんなことないと。エコ、エコって、もうあまり聞かないでしょう。

【平井委員長】

今は一般化してきているのかもしれませんがね。

【藤本委員】

エコのお米も農薬を減らさないといけないし、化学肥料を減らして有機肥料をやらないといけないし。有機肥料を1回やって、それで終わりにならない。また追肥をしないといけない。手間がかかる。

そうすると、高くついても採算が合わないし、そういう米ばかり食べるという人があまりいないから、たくさんつくっても販路が大変みたいですね。農協は、エコ米をたくさんつくれと言っていますが、たくさん会へ入ってくれたら、後で入ってくれた人は自分で販路を探してくださいと。

【平井委員長】

市内の人は、給食に出るなど、そういうことはなかったでしょうか。

【藤本委員】

エコ米は給食に入っています。

【坂本委員】

あと農研の野菜も、給食のほうに。

【藤本委員】

でも1回の量が多いんです。たくさんつくる品種はいいけれど、自家用で食べるようなものは注文の量に届かない。キャベツでも1回に200キロぐらい。大体、1キロ平均ですから。

【平井委員長】

単純に考えたら200個以上ということになりますね。

【藤本委員】

それも運ばないといけない。今まで市から、助成金があったんです。それもカットになってしまって。配達してもらった人に運賃払わないといけない。そうすると、つくった人には安い値段しか払われないという。

だんだん品種も増えています。今度は、秋口はタマネギ、カボチャ、ネギとエコ米ですね、4品種かな。でも今度、また給食センターが変わるでしょう。そんな話を聞いていますが。今度は、加工もされるのでしょうか。そんな話を聞きましたが。

【平井委員長】

そうですか、ごめんなさい、全然知りませんでした。

【事務局（鈴木）】

先ほどのご議論の中で、農業者さんには、いろんな問題もあるでしょうし、なかなかものがそろわない、もしくはいつか同じものをつくられるということで、なかなか同じ時期に生産が増えてしまうと、どうしても自家処理にならざるを得ないというお話もありました。例えば消費者さんの立場から見たときに、年中地場産をとというのは、なかなか難しいところもあるかもしれませんが、地場産の野菜を使って商品に変えていくといった話は、普段なかなかお話しされることはないと思いますけれど、

それをうまくつないで、よくスーパーなどで毎月何日は地場産の日とかつuckingているのを見ることがありますので、そういうのに何か結びつけていけるような、施策の連携というのは、何か近くならではの取り組みといたしますか。

例えば、今のお話でいくと、極端な話をすると、四條畷で大豆をつくって味噌をつくっている、田原のほうで味噌をつくっていらっしゃる。だから原料が田原です、売るのは商店、その入れ物をつくるのは工業、そういう何か、うまくサイクルできるような中で、自分たちの販路拡大であるとか、取り組みによって売上を伸ばしていくという、そういうことにつなげていけばいいなと思いますし、そういったところから消費者に関心を持ってもらって、地元のものを使ってもらおうという1つのきっかけになってくるのではないかなと。

本来、私が口をはさむところではありませんが、そういう視点で、いろいろと、何かこういうことだったら連携していけるのではないかと。こういうことをしていくと一緒に取り組みをしていけるのではないかとか、もしくは、こういうことをしていかないと、なかなか消費者の方に認知してもらえないのではないかとということのご意見もいただけたらと思います。

【平井委員長】

施策をつくる立場としては、本当にその辺が切実だと思います。

【北田委員】

以前に、私たちのところで味噌づくりを毎年しているから、それを田原の豆でということで、やったのですけれど、2年ぐらいは、それで何とかいけましたが、準備ができないということで、それだけの量がとれない、その人その人によって、やはり違うからというので、結局、最終的にはやめました。

【藤本委員】

田原で加工するだけの豆も確保できない。

【北田委員】

ないということでしょう。生産量がやはり少ないから、そういうことも連続できなかったですね。2年間だけ頑張った、2年か3年か頑張ったのですけど。そういう部分もあります。だから生産が追いつかない。

【藤本委員】

追いつかない。高齢化でやめていく人が多いから。

【平井委員長】

事業者が減っているようなところも出ていますけれど、私はこの調査結果を見て意外だったのは、後継者はいるとおっしゃるところが結構多かったりしましたよね。

【北田委員】

ありましたよね。私はないのかなと。

【平井委員長】

いや、そうなのかなと正直思ったのですけれど、そうなのですか。

【藤本委員】

ないところもあるし。

【平井委員長】

半分以上、後継者がいるとなっているんですよ。

【坂本委員】

でも、それはほとんどが米農家です。

【平井委員長】

そうか、作物によって違う。

【北田委員】

兼業ですか、専業ではなくて。

【坂本委員】

兼業です。

【藤本委員】

米は、ちょっと休ませてもらって、できるという。

【平井委員長】

だから、一定の量を確保していくための、米以外のものについて、やはり担い手の問題があるということでしょうか。

【藤本委員】

そうだけど、私が見たら、アンケートとは違う考えだと思います。

【平井委員長】

感触が、ちょっと違う感じですか。

【藤本委員】

はい。ほとんどは、後継者がいない。

【平井委員長】

そうですね。いないからやめていくという話をよく聞きます。

【藤本委員】

米でも。若い子どもは、結婚したら、もうほとんど出てしまって、年寄りしかいない。それで、土日、子どもは休みですよ。帰ってきて手伝っているみたいですが、親がいないようになったら、帰ってきて、できるかいうと、できないと思うので。

【平井委員長】

本人のほうは、後継者がいると思っているということですね。

【藤本委員】

後継者がいると思って、いると書いているけれども、実際、継いでほしいという無理だと思います。さあやるとなっても、やり方がわからない。

【平井委員長】

そうなってくると、心配になってきましたのは、ビジョンの中で結構、農業を検討しますと書いてあるのを、ここまで書いていまって大丈夫かなと思ったりします。できることというか、前に向いていくことはね。

【藤本委員】

まあ当分はいけるとは思いますけれども。

【平井委員長】

さきほど事務局のほうからお話しが出ていましたけれど、何かイベント的なことを商店街とするなど、そういうことが、例えばできる可能性があるのかということですよ。

【松川委員】

よその話ですけど、Aコープなんかは、スーパーの一角に地元の人がつくった野菜のコーナーというのが、わずかのスペースであります。つくった人の名前を書いて置いているようなコーナーもありますし、例えば、毎日ではなくても、月1回だけとか、1週間に1回とか、空き店舗を使って商品を、そのときだけ持ってきてもらって、そこで販売するといったことは、可能なのは可能です。

ただ、やはり先ほどおっしゃられたように、商品を運ぶだけでも交通費かかって、それから経費かかって、売れても利益出ないということになると、また変わってくるので。

【平井委員長】

やはり近くでないと成り立たない話というのは、多いですね。

【松川委員】

ただ、同じ四條畷で人の集まるところでないと、また持っていっても売れないし。

【北田委員】

四條畷の飯盛霊園とか、土日か何か、週に1回とか、田原の野菜を置いていなかったでしょうか。もう、それはやめたのでしょうか。

【藤本委員】

売りに行っている人もいます。

【北田委員】

そういう場所は何カ所かあるのですか。以前は役所の中にもありましたが、それはなくなったでしょう、木曜日。

【平井委員長】

週1であったのですか。

【北田委員】

週1でされていましたが。

【小宮委員】

忍ヶ丘のラッキーの中にも田原のが。

【藤本委員】

あれは、持って行って置いて、もう帰るだけだから。それで全額買い取ってくれるから。そしたら、売る時間がないですからね。露点みたいなところをしていたら、ついて売らないと。無人でも、いろいろ販売したけれども、やはり置かしてもらってディベートを払っているぐらい盗難にあうから、売上を見たら、そんなに入っていない。

【北田委員】

販売の場所をつくるよりも、その程度の野菜しか今、つくれないということでしょう。だから、道の駅みたいな建物を建てても駄目ですよ。

【高見委員】

質問ですけど、専業農家、兼業農家を含めて、販売ルートというのは、やはりJAさんを通してということですか。

【藤本委員】

いえ、個人で。

【坂本委員】

お米のほうは農協のほうに集荷される方がほとんどですけど、野菜なんかは直接、個人で。米も今、もう自由化ですので、特に農協に必ず出さないといけないということもないです。どこか高いところを生産者が選ばれて出されるということも。農協はある程度の買い取り価格で買わせていただいているので、それで農協に皆さんに売られるケースが多いのですが。四條畷でとれているお米は、ある程度、この1学期でしょうか、4月から7月まで小・中学校の給食に、お米のほうは農協のほうから販売させてもらっています。

【平井委員長】

確かに量の問題は、昔からよく出てくる話ですけど、希少価値みたいなのが出ないかなと思ったこともあります。年に1回しか出てこない幻の何とかみたいなのがあると、いいなと思ったりしたのですけれど。

【藤本委員】

新しいのをつくるという意欲のある人がいない。

【北田委員】

人材育成ですね。

【平井委員長】

まさにおっしゃったとおりで、人材の話になってくると、後継者がいるという調査結果で、この話でいくと、今の感覚からしたら、少し違うかなと。だから、そこで、では人材をどうしていくのかという話になります。

【藤本委員】

何件か組んで、法人化で、委託でやるようになったほうが、あとやりやすいと。農協のほうも委託はあるけれども、農協と違って、また別のある程度の法人みたいなのを。10人ぐらいの作業員で、田原であれば田原を全部回ってしまう大規模な。

【平井委員長】

ある程度、規模を集約して、大きな束にしてということがないと、なかなか厳しいですよ。

【藤本委員】

土地が、区画整理できない、田んぼの面積が小さいから無理だろうけれど。

【平井委員長】

この場で、ではこうしましょうと、なかなかなるわけではないのですが、せつかく今回ビジョンの改定ということで、いろいろ新しい取り組みも盛り込んでいけるといいますし、実際、ここに書いたから、せつかくだから前に進めていかないと、というところもありますから、その辺、また知恵を使っていかなければいけないという気はいたします。

なかなか工業の話まで至っていないですけど、うまいこといけば、例えば農産物を加工して、といった話に結びついていく可能性も出てくるかなと思っています。せつかく今回、大きな改定時期ですから、何か今までのビジョンに乗せていこうというよりも、ちょっと目先を変えたといいますか、問題状況は、ずっと前からありますので、何とか、それを少しでもプラスに変えていくようなものを、ご意見をいただいて、盛り込まなければいけないという気はいたしております。

仕切りが悪くて申し訳ないですけど、時間の関係もありますので、全体を通して見ていただいて、どうしても、ここだけとはいうところがありましたら、お伺いしておきたいのですが、いかがですか。

【梶川委員】

全体を見させていただくと、何々を推進しますとか、促進します、検討しますという形で書いてあるのですが、その結果は、どのように市民の皆さんに教えていただけるのでしょうか。市としては、どういうふうに、それに対して評価するなり、それを参考に、どういうふうに動くんだと、そういうことは、どこで私たちは、見ていったらいいのでしょうか。

例えば 21 ページの他地域の先進事例の研究というところ。やはり私たちは研究結果を知りたい。他市

はどうやったか、四條畷は、どうなっていくんだと。それに向けて、今までを踏まえて、どう変化をつけていくんだと。これはどこで見たらいいのでしょうか。ホームページでしょうか、広報でしょうか。

結果を、どういうプロセスを使って発表していただけるのかなど。私も、そういう結果は、やはり早く知りたいなと思いますし。それを踏まえて、また例えば1年後の会議なんかに、それは使えるのではないかと。自分はどう評価しましたと、そういうお話もできるのではないかと思います。

【平井委員長】

結構、全体的に検討しますというものが、具体策の中ではありますから。

【梶川委員】

はい。ただ、検討しますは、ある意味では、いい逃げ言葉になるんですよ。

【平井委員長】

まあ日本語の常套句で。

【梶川委員】

失礼な言い方ですけど。

【平井委員長】

検討はしたけれど、やりませんと、そのままになってしまうという話です。検討した結果、こういう理由で、違う方法を考えるとか、やらないのであればそれもアリだと思います。

【梶川委員】

それもいいと思います。検討した結果、これは今年無理なので、来年度、再来年度に引き延ばしますとか、検討した結果、どういうプロセスで検討して、これはここで廃止します。そういうことが常に見えてこないと困るなど。何のために、これをつくったのですかということになりますので。

【平井委員長】

具体策の中に、検討しますとあるものについては、こういう経過だったんだということがわかるようにということでしょうか。何か事務局から、それに関してコメントがもしありましたら、お願いしたいのですが。

【事務局（西岡）】

旧のビジョンも同じですが、この結果については年1回、進捗の報告というのをさせてもらいながら、次年度どうするかという検討もしていただく。その結果については年1回、こういう場で、この結果が出たとか、これは随時、年1回報告していく感じです。

【梶川委員】

もっと細かくしてもらっても、いいのかなと思うのですが。

【事務局（西尾）】

例えば商業のアンケートをとりました、こんな結果が出ましたという、そういう報告でしたら商業団

体さんには結果が出たらすぐお知らせするような形にはなるとは思いますけれど、全体をずらっと網羅したようなものは、やはり年1回の、この場で報告する形にはなるとは思います。

【平井委員長】

基本的に推進協議会ですから、ここで本来は、きっちりどうなったかを検証していくということだと思いますね。

【事務局（西尾）】

はい。

【平井委員長】

ただ、前回からの、これも課題かなと個人的には思っているのですが、ビジョンの存在であったり、ビジョンで四條畷はこんな産業施策をやっているんだということは、なかなかまだ市民の方に十分周知できていない。特に産業の分野というのは、なかなか難しいと思います。四條畷は、見たところ、目の前に工場があるわけではないですから、産業で何かやっているというイメージがあまり持たれにくいのかなと思ったりします。

ですので、産業振興を、ちゃんとしているんだということを、私も含めてですけど、委員の皆様方にも、市役所も、広報の役割も担っていただかないといけないのかなと思います。

【高見委員】

6ページ、視点が4つあります。みんなで一緒に市民のニーズを取り入れながらやっていきたいと思います。その一緒にやっていきたいと思いますところと具体策とを、どのように関連づけていくのでしょうか。

【平井委員長】

基本方針があって、そこから、それぞれのところにぶら下がる具体策があるわけですね。基本視点と方針のところですか。それとも具体策のところですか。

【高見委員】

基本視点と基本方針の4つの中の具体策という。

【平井委員長】

視点1から視点4までの話と具体策ということですね。

【高見委員】

いや、結局、基本方針の4まででは、各主体が個別にやっていくというようなことではないのですか。

【平井委員長】

いや、むしろ旧ビジョンのときには、割とそういう感じでした。四條畷だけに4だから、農業、商業、工業、観光という感じで、それぞれの施策を立てましょうというところが強く出ていたのですが、これを拝見すると、割とあまり区分けせずに、1つの課題に向けて、いろんな産業からアプローチしていきましょうという、そういう感じのように受け取っています。

ただ、具体的にやっていくときに、もちろん主体になる何かはあるわけでしょうから、全部が全部、いろんなものが入り混じってというわけではない。例えば販路の問題でも、商業が関連してきますし、何か加工するとなったら、パッケージは工業が入ってくるわけなので、何々産業の振興みたいなことだけではない、そういうイメージを持っていたのですが。

勝手にそういうことを言っているのですが、いかがでしょうか。事務局から何かもし補足がありましたら。

【事務局（鈴木）】

おっしゃっていただいたとおりで、以前からも、これからも、各産業の方々は主体でさせていただきたいと思います。ただ、それだけでは、やはり産業を持続させていくことができなくなってくる環境がございますので、いろんな業種がある中で、今までとはまた違った取り組み方をしていくことで新たな機会が増えていく、そういったことも含めて考えていきたいというのが今回の趣旨ではあります。

それで、どういうふうにかかわり合っていくかというところを、実はもう少し議論を深めていただけたらと思っております。

時間の都合もございまして、この後、今後のスケジュールについてお話させていただきたいと思えます。

【平井委員長】

ちょっと十分な議論がなくて申し訳ないのですが、時間の都合もありますので、もしこの部分はこのところがなければ、今回いろいろな議論をいただきましたので、それも踏まえて、これを素案として話を進めていく、そういう考え方でよろしゅうございますか。ご異議ございませんでしょうか。

（「はい」の声あり）

【平井委員長】

ありがとうございます。

そうしましたら、これで素案という形で、また議論を深めていくということになりますので、事務局の方々にも、よろしくお願ひしたいと思います。

続きまして、まだ次第3、その他に関しては、何か皆様のほうからございますか。

では事務局から、今後のスケジュールに関してのご説明をお願いいたします。

（事務局より、今後のスケジュールについて説明あり）

【平井委員長】

ありがとうございます。来年度以降は、年度が始まったときと、途中とで1回ずつ、こういうふうやっていくという、そういうことでございました。

ということで、今回の改定に関しては、ご覧いただきましたように、日程がタイトになっておりまして、お忙しい中、ご面倒をおかけするかと思うのですが、やはり四條畷のような地域だからこそ、私は個人的に、この産業振興は非常に大事だと思えます。放っておいたら何か大きな企業があつてということではないですし、かといって住宅都市だから産業要らないということでもないと思えます。やはり産業があつてこそその市民生活ですし、雇用や生活の基盤という部分がありますから、ここの役割は非常に大きなものをいただいているのかなというふうに改めて自覚しているわけです。

ということで、委員の皆さんも、ぜひご協力をお願いしたいと思いますし、何と申しましても、市民の方々に関心を持ってもらって参画していただくというようなことが必要かなと思っています。前回のときには、パブリックコメントの数が少なく、寂しい思いも少ししましたので、関心を持っていただくような取り組みも、私自身も頑張っていきたいと思いますので、ぜひ皆様にもご協力をよろしくお願い申し上げます。

そうしましたら次回が、9月の中旬ということになってございます。1カ月少々しかございませんけれども、また、こういう場でお集まりいただくということになります。事務局のほうから、また日程のご確認させていただくと思いますので、ぜひよろしくお願いを申し上げます。

皆様並びに事務局のほうから、何かほかにございますか。よろしゅうございますか。

今日は時間を少しオーバーしてしまったところもございますが、新しい産業振興ビジョンの策定ということで、非常に大事な場面でございますので、ぜひ今後とも皆様のご意見、ご協力、よろしくお願い申し上げます。

ひとまずこちらで推進協議会のほうを閉会ということにさせていただきます。本日は皆様、お忙しいところ、大変ありがとうございました。また次回、よろしくお願いいたします。